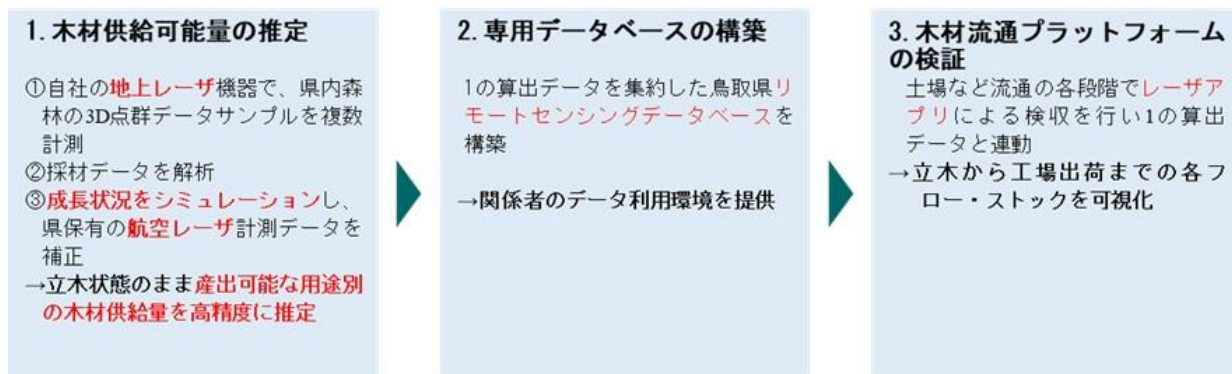


1 TFI+ の概要

- 県の保有するビッグデータを活用した課題解決型の公募事業を実施し、民間企業のノウハウや新しい視点を取り込んで、鳥取県から新たな林業イノベーションを展開することを目指すプロジェクト。
- 林業分野に限定したソリューション開発コンペは、全国自治体初の試み。
- 令和4年度から、日本の林業イノベーションを牽引する鹿児島大学の寺岡教授や柴崎CIO 補佐官や米澤CIO 補佐官に助言を頂きながら、「県産材の生産量拡大」等のテーマで提案を募集し、令和5年3月に開催したコンペティションにおいて採択事業者を決定。
- 令和5年7月に採択事業者への表彰式を開催。
- 令和5年度は採択した(株) マプリアによる提案について、県によるメンタリングの支援の下、試作品開発を実施。

2 (株) マプリアによる提案の概要

提案名	森林における用途別の原木供給可能量の推定と流通システム
概要	県が保有する航空レーザ計測データを自社計測の地上レーザ計測データ等により補正し、立木状態で用途別の原木供給可能量の高精度な推定を可能とするとともに、伐採した原木の検収データを連動させることで、川上側の木材生産から川下の木材利用におけるサプライチェーンの各段階におけるストック・フローを可視化した木材流通プラットフォームを構築する。



森林資源情報の把握から木材需給マッチングまで一連の行程を変革
大幅なコスト削減、省力化、生産性向上の実現へ

- 本提案は、航空レーザ計測及び地上レーザ計測により取得した3D点群データを活用して森林資源の成長シミュレーションを行うものであり、山林のデジタルツイン*の構築に発展し得るものである。

※デジタルツインとは、GIS（平面地図情報）上に高さや奥行などの3D要素のデータを加え、現実空間の地形や建物等を仮想空間上にいわば「双子」のように立体的に再現する取組の概念をいう。デジタルツインは仮想空間上において、現実では不可能なシミュレーションを行うことを主な目的としており、施策を実施した際の影響や効果を事前に正しく把握し、より効果的な施策の検討に役立てることができる技術として期待されている。